

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙のメッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

G・アダムスキー著「生命の科学」を生かさなければ意味がない！・・・とよく言われます。この“生かす”とはどのようなことを指しているのでしょうか？

経験から言えることは、1つに、本書を「理解する」、2つに「実践する」、そして3つに「振り返る」ことだと考えています。

初めに「理解する」とは、書かれている内容を深く読み解き、納得していくことで、現実の生活を見ながら、様々な視点から考察して行くことが必要です。ここが最も基本的なところですが、偏見を持って読んだり、浅い精神性で読んでしまうと、真意を理解できないところがあります。一人で学習する場合は、この辺の問題点に気づけず、成果が上がらないことが多いと感じます。

2つ目の「実践する」とは、理解したことを行うということです。この行うということが難しいのです。それは、理解が十分でないことに加え、忍耐力が弱いからだと思われます。実践する力がなくては、何事も生かすことはできないでしょう。

そして、3つ目の「振り返る」とは、時々、自分の言動について客観的に観察することを意味しています。ここでの観察の視点は、「生命の科学」を理解し実践した結果、何がどのように変化したのか、実践において自己の利得のために行動していないかというもので、アダムスキーの伝えた想念観察に近いものです。

そこで変化がないとか、エゴを感じるならば修正をしていく必要があります。これを行わなければ、生かしているとは言えないこととなります。

アダムスキーが伝えた「生命の科学」は、実践するものをして、その周囲に予想外の変化をもたらすもので、そのメカニズムは、自己の細胞の良い変化から、その周囲への良い変化へと広がるものです。この経験が、良きカルマを形成していくことになるのです。

「生命の科学」を学んでも、何も良いことがないという人は、それを生かすステップのどこかに問題があるということなのです。

言葉に注目

<…赤ん坊…彼らにしか見えない友達…彼ら自身の直前の過去の生涯における姿です。>

by アリス・ポマロイ著『肉体を超えて大宇宙と一体化する方法』（中央アート出版社）

表記は、アダムスキーが、ニューヨーク州での小集会の質疑応答で話したものです。年配の婦人が、孫が一人遊びをしていて、誰も見えないのに、そこにいると言って話したり、怖いおじさんが見えたりする。こうした事例についてアダムスキーが説明したものです。

アダムスキーによると、十中八九、その友だちは彼ら自身の直前の過去の姿だというものです。アダムスキーは、実際に子供たちとそのことで話をしたことがあるということです。

また、ある女性は、夢の中で1500人も様々な人と会っていて、それも、過去の自分であると説明しています。かつて、私の知人で市外に住む女性は、頭の中で老人の顔が見え、指示されることがあると言っていました。あれも、そのようなことなのだと思います。

「生命の科学」学習のポイントPart51

レクチャー5 「意識、英知、生命力」の2回目「三次元世界に住みながら四次元世界を認識する」です。

初めに、心を意識との関係のなかにおくと書き、海岸を例にあげ広大な水面を眺め、その中に無数の生命が存在していることを知ったうえで、海底の一粒の砂を見るように海底から海面付近の無数の生命体を知覚しなければならないと言っています。この訓練は、実際の印象を受けているのか、過去の映像を思い出しているのかの区別が難しいところです。

また、クジラを例に海中での行動と海面での呼吸などから、二つの異なる体験を持っていると説明します。そして、「人間も、同時に二つの異なる体験下で生きていることを知覚するようにならねばなりません。」として、人間は、三次元の地球上に住んでいて、四次元を頼りに生きているのだと書いています。これを対比して、魚に水が必要なように形あるものすべて、当然に人間も四次元がないと生きていけないと言っています。

次を要約すると、人間の感覚器官の心は、三次元で生きていて、それをういながら周囲を取り巻く現象の背後である四次元世界（意識界）を理解しようとして、苦しんでいるというのです。つまり、四次元世界を理解するためには、意識をもちいよということです。

次に、気になる一文があります。イエスが四次元を伝えたが理解されなかったと書いた後、「しかし人間はいまここでそれを理解しなければこれから先それを理解できる機会はないでしょう。」というものです。この文章は、「生命の科学」が地球へもたらされたことから言っているようです。本書の意義と、それを学ぶ理由、重みというものを考えざるを得ません。

宇宙に“生きる”

<名言格言編51>

“猫に小判”

どんな高価なものを与えても、その価値が分からない者にとっては、何の役にも立たないという例えです。アダムスキーは、理解できない人に伝えたところで、無意味なばかりか、時には危険でさえあると言っています。私たちの活動も、相手を見て伝えていきたいものです。

Q：お金持ちになるのは悪いこと？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：お金儲けは悪いという意見がよくあります。しかし、そのこと自体、悪いということはありません。問題は、どのような思いで儲けているのかということです。お金持ちになることが目的である場合は、エゴを満足させる行為となりますが、お金を設けて、人々への援助の観点から、国内外の貧しい人たちに施しをする人もいます。資本主義社会は、多くの歪みを生じていますが、その中で、どうか宇宙的に生きることは可能であると考えています。

書物紹介

『宇宙になぜ我々が存在するのか』 村山 斉 著 (株)講談社

本書は、タイトルからの印象とは異なり、最新の素粒子入門書です。著者の村山氏は、素粒子理論における若きリーダーの一人です。素粒子とは、原子核の構成要素で、陽子や中性子を意味していますが、さらに、ニュートリノやヒッグス粒子の話へと進んでいきます。この研究により、どんな物質でも必ず対応する反物質が存在することが分かり、それらの展開で宇宙（物質）誕生へと繋がります。素粒子の視点から、我々の存在を考えるという新しい書物です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成 27 年 5 月 9 日（土）、7 月 11 日（土）、9 月 5 日（土）、11 月 7 日（土）、平成 28 年 1 月 9 日（土）は、台東区民会館となります。時間は、すべて午後 1 時 30 分。会場代一人 500 円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

今回の編集は、この期間に色々なことがあり、なかなか大変でした。今後は、少し落ち着いて編集できるかと思えます。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第51号>

発行日 平成27年5月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊克明（禁無断転載）